

平成 30 年度（2018 年度）事業報告

（平成 30 年（2018 年）4 月 1 日から平成 31 年（2019 年）3 月 31 日まで）

1. 食物アレルギーに関する研究開発支援事業

(1) 2017 年度公募型研究助成事業の完了

2017 年度に実施した食物アレルギーに関する基礎研究、診断・治療及び対応食品の開発に関する研究助成事業（共同研究 5 件・2,888 万円、個人研究 14 件・2,799 万円、期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月）を完了した。研究成果報告書を纏め、当財団 Web 上での掲載及び冊子で公開するとともに以下の内容で研究成果報告会を開催した。

《成果報告会》

開催日：2018 年 10 月 15 日

場所：AP 品川アネックス（東京都港区）

出席者数：約 60 名

内容：共同研究助成課題 5 件について発表した。医学や食品領域と専門分野が異なる出席者の間で活発な議論が行われるとともに交流が図られた。研究成果に於いても当共同研究助成の目的である異分野融合型研究の意義を確認した。

(2) 2018 年度公募型研究助成事業の実施

食物アレルギーに関わる科学技術の振興・促進を図り、患者を取り巻く医療や食環境の改善に寄与することを目的に実施している研究助成事業において、2018 年度の助成先として採択された食物アレルギーに関する研究課題に対して以下の通り研究助成を実施した。

《助成先等》

助成件数：21 件（共同研究 6 件、個人研究 15 件）

助成総額：6,304 万円（共同研究 3,499 万円、個人研究 2,805 万円）

助成先：別表 1に記載

助成期間：2018 年 4 月～2019 年 3 月

特記事項：2019 年度中に研究成果報告書の作成と公開（財団 Web への掲載、冊子作成、報告会の開催）を行う。

(3) 2019 年度公募型研究助成事業の推進

2019 年度公募型研究助成事業を推進し、公募、審査、助成先の決定を行った。

ア 主要日程

- ・2019年度研究助成募集要項の策定（2018年6月）
研究助成審査委員会で提言のあった審査方法等に関する改善内容も考慮し策定した。
- ・公募（2018年7月13日～9月30日）
- ・第1回研究助成審査委員会（2018年10月15日）
- ・第2回研究助成審査委員会（2018年12月14日）
- ・助成先の決定（理事会決議：2019年2月1日）
- ・通知（2019年2月）
- ・覚書締結（2019年3月）

イ 助成先等

- ・応募総数：48件（共同研究15件、個人研究33件）
- ・助成件数：22件（共同研究6件、個人研究16件）
- ・助成総額：6,299万円（共同研究3,410万円、個人研究2,889万円）
- ・助成先：別表2に記載
- ・助成期間：2019年4月1日～2020年3月31日

(4) 学会等を通じた学術振興支援及び情報発信

財団の事業戦略策定に有益な研究や行政動向に関する情報収集を行うとともに、財団のパブリックリレーション活動の一環として、以下の学会や展示会に参加し、講演、展示または広告掲載等を行った。

医学関係：日本小児臨床アレルギー学会、日本アレルギー学会※、日本小児アレルギー学会、食物アレルギー研究会

食品関係：日本栄養・食糧学会、日本食育学会、ifiaJAPAN、日本食品化学会、日本食品免疫学会※、日本食品科学工学会、日本農芸化学会

栄養士関係：日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会

※は参加のみ

また、日本栄養改善学会及び食物アレルギー研究会において、ランチョンセミナーの共催者に受諾され、実施した。

《日本栄養改善学会でのランチョンセミナー》

実施日：2018年9月5日

会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

共催：第65回日本栄養改善学会学術総会

演者：海老澤 元宏 先生（国立病院機構相模原病院臨床研究センター
副臨床研究センター長）

演 題：食物アレルギーの栄養指導の手引き 2017

参加者：270 名

《食物アレルギー研究会でのランチョンセミナー》

実施日：2019 年 2 月 17 日

会 場：都市センターホテル

共 催：第 19 回食物アレルギー研究会

演 者：柳田 紀之 先生（国立病院機構相模原病院 小児科医長）

林 典子 先生（湘北短期大学 生活プロデュース科 講師）

演 題：食物経口負荷試験に基づいた栄養食事指導

参加者：400 名

2. 食物アレルギー患者や家族の QOL 維持・向上を目指した啓発活動

(1) 「第 4 回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」表彰事業の実施

食物アレルギーに向き合う方の健全で豊かな食生活に寄与するために、食物アレルギーに配慮した家庭での料理技術の伝承、教育機会の創出等を目的として料理コンテスト事業を継続実施した。食物アレルギー除去食、代替食料理を公募し、食品や医療分野等の専門家で構成する審査委員会にて優良作品を選考した。また表彰式を開催し受賞者の栄誉を称えた。

昨年度と同様、応募者は、一般の部と学生の部に分類、対象料理は、主食・主菜・副菜・おやつ・デザート等のジャンルを問わず募集した。

ア 主要日程

- ・ 2019 年度募集要項の策定（2018 年 6 月）
- ・ 公募（2018 年 7 月 1 日～9 月 30 日）
- ・ 第 1 回審査委員会（2018 年 11 月 9 日）
- ・ 第 2 回審査委員会（2019 年 1 月 27 日）
- ・ 受賞作品の決定（理事会決議：2019 年 3 月 7 日）

イ 受賞数等

- ・ 応募総数：819 件
- ・ 事務局による一次審査通過数：101 件（両部門合計）
- ・ 審査委員会（書類選考）による二次審査通過数：20 件（両部門合計）
- ・ 審査委員会（試食審査）による最終審査結果：
 - 最優秀賞 1 件（各部門それぞれ）
 - 優秀賞 1 件（各部門それぞれ）
 - 審査委員特別賞 4 件（各部門それぞれ）
 - 入賞 4 件（各部門それぞれ）

なお今回は、簡便性・プロ級・郷土食・非常食といった観点で高い評価を受けた作品には

それらの特徴を表彰状に明記した。

受賞作品名は別表 3 に記載

ウ 表彰式（2019年3月17日）

審査委員特別賞以上の12組及び来賓、合わせて約90名規模で開催し、受賞の栄誉を称えるとともに、創作料理への想いや体験について語る機会を設けた。祝賀パーティーでは、受賞作品に加えて食物アレルギー対応料理も提供し、出席者の交流と情報交換が図られた。また、本事業への関心度が極めて高く、事業を継続する意義について確認した。受賞作品のレシピ、調理法（動画）をWebで公開する他、レシピ集（小冊子）を作成し、成果の普及に向けて取り組む予定。

エ 過去の応募料理からの価値ある作品の再評価と表彰

過去3回の一次通過作品から優れた作品を再評価し、240品から15品を選考した。来年度、レシピの料理を再現後、表彰の確定を行う。

(2) 食物アレルギーセミナーの実施

全国5か所で、栄養士や食従事者を対象としたセミナーを開催した。藤田医科大学医学部客員教授の宇理須厚雄先生に「食物アレルギー対応最近の考え方」に関する特別講演を、別府大学食物栄養科学部教授 高松 伸枝先生に「食物アレルギー栄養指導のポイント」についてご講演いただいた。講演後には現状抱えている問題を各先生と解決することを目的に座談会（質疑応答）も行なった。624名が聴講し、診断・治療・栄養指導・事故予防等の分野での最新情報を盛り込んだ講演は好評であり、正しい知識の普及を目的とする当該事業の意義を確認した。なお、(公社)日本栄養士会の「生涯教育認定制度」の運用（受講者の単位取得）を継続実施した。

《開催地》

山口会場：2018年11月18日、ホテルニュータナカ（山口県山口市）

仙台会場：2018年12月2日、TKP ガーデンシティ仙台勾当台（宮城県仙台市）

熊本会場：2019年1月13日、TKP ガーデンシティネストホテル熊本（熊本県熊本市）

愛媛会場：2019年3月3日、リジェール松山（愛媛県松山市）

東京会場：2019年3月17日、女子栄養大学駒込キャンパス内

その他、啓発活動の一環として、栄養士会、学会、大学等からの依頼により、栄養士や学生を対象として、食物アレルギーに関する栄養指導を含む基礎知識、当財団活動等について講演を実施した。

(3) 団体活動支援助成の実施

全国の市民、民間団体の行う食物アレルギーの問題解決を目指す諸活動（教育、調査研究、

啓発物作成等)を支援する目的で助成事業を行った。支援先の決定を公正・公平に行うために公募制とし、理事会にて、審査基準に基づき、公益性や社会への波及効果等を評価し、助成の可否決定を行った。なお、助成先の不定期的な計画化に極力対応するため、今年度も2期に分けて実施した。

ア 主要日程

- ・ 公募
第一期：2018年4月2日～4月28日
第二期：2018年8月1日～9月4日
- ・ 助成先の決定
第一期：2018年5月24日、第二期：2018年10月11日
- ・ 助成期間
第一期：2018年7月1日～10月31日
第二期：2018年11月1日～2019年3月31日

イ 助成先

- ・ 助成件数：10件（第一期・5件、第二期・5件）
- ・ 助成総額：534万円（第一期・269万円、第二期265万円）
- ・ 助成先：別表4に記載

3. 地域社会、産業と連携した食物アレルギー対応力向上に向けた取り組み

(1) 事業成果物の普及活動の強化

ア 啓発物の普及

2015年度に制作し全国の小学校、公立図書館に寄贈した「食物アレルギー」を主題にした啓発本「食物アレルギーのひみつ」について、昨年度に継続してプレゼントキャンペーン（年4回）を行い献本した。小冊子に関しては、学会展示や各種講演向けに配布した。

イ 料理コンテスト事業における入賞作品レシピの普及

当コンテスト受賞作品を普及するための活動を推進した。第3回コンテスト受賞作品の料理動画を作成し、Web上での公開を行った（第1～3回を合計し60品）。また、第3回コンテスト受賞作品のレシピ集を作成し、展示会やセミナー等で配布した。

ウ 料理コンテスト事業における入賞作品の市場への普及

社会での普及を目指して成果物の情報公開を行っているが、成果物を応用した製品の市場化には至っていない

(2) 行政等のソーシャルセクターとの連携

ア 厚生労働省との連携

厚生労働省の健康局と情報交換を継続してきたが、事業成果物の社会への普及及び社会での活用が期待される以下の取り組みが進展した。

(ア)各都道府県のアレルギー疾患担当部(局)に啓発本「食物アレルギーのひみつ」約10,000部を寄贈した。保健センター(全国2,456箇所)を中心に配布する計画で進行中。対象とする主な読者は乳幼児健診等で来訪する母親である。

(イ)同省の補助事業としてアレルギー関連学会が運営するWebサイトに、啓発本やレシピ集が公開された。

イ その他

(公社)日本栄養士会が主催する「食物アレルギー管理栄養士・栄養士認定制度」開設のための委員会に財団職員を委員として派遣・参画し、制度の構築を支援した。2019年春から制度が発足する。

4. 財団の認知度や理解向上のための取り組み

(1) Webサイトによる情報発信

コンテンツの追加を進め、情報発信効果の強化を行った。財団活動の認知を高め、アクセス数の向上を図るため、SNS発信も継続的に行なっている。

(2) その他の認知度向上のための活動

学会等での展示、各種講演等で財団の知名度の向上に努めた。また、事業進捗過程で、ニュース価値を判断し、9回のニュースリリースを実施し、多数の記事掲載実績を得た。

5. 財団運営

(1) 健全な法人運営

“公益性とガバナンスの維持”を基本とする健全な運営を図った。理事会、評議員会、各種委員会の運営においては関係法や規程の遵守を念頭に遂行した。運営に万全を期すために外部ブレイン(監査法人、公益法人協会、助成財団センター等)も活用した。

機関運営を別表5に記載

(2) 内閣府の立ち入り検査

公益財団法人認定後の初回立ち入り検査を受けた。自立性を重視した職務遂行体制を含めて、事業内容、運営、管理面全てにおいて特段の改善を要す指摘事項は無かった。

(3) その他

一般からの寄附金募集を2019年2月末より開始した。

以上

別表1 2018年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成(6件)】

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	北浦 次郎	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 先任准教授	抑制型受容体に着目した食物アレルギーの予防・治療法開発
2	常山 幸一	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 患病理学分野 教授	経皮感作による甲殻類アレルギーモデル動物の作成とプレバイオティクス投与による予防効果の解析
3	松永 佳世子	藤田保健衛生大学 教授	魚アレルギー免疫療法を見据えた複合的低アレルギー化コンポーネントの開発
4	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発
5	村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断マーカーの応用と診断キットの開発
6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω -5 グリアジン欠損食用小麦の開発: ω -5 グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて

【個人研究助成(15件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	伊藤 靖典	富山大学医学部小児科 助教	食物アレルギー児の食事指導における葛根湯併用の耐性誘導獲得効果の検討
2	上番増 喬	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 予防環境栄養学分野 特任助教	母親の腸内環境が胎児の出生後の食物アレルギー発症に及ぼす影響の解析
3	岡田 祐樹	昭和大学医学部小児科学講座 助教	新入大学生を対象とした成人食物アレルギー調査研究
4	倉島 洋介	東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター 特任准教授	経口免疫療法によるエフェクター細胞の形質変化の誘導機序の解析
5	黒谷 玲子	山形大学大学院理工学研究科 バイオ化学工学部 准教授	新規生理活性物質 SCGB3A2 の食物アレルギー改善薬としての検証
6	小西 瑞穂	国立成育医療研究センター 研究所 研究員	心因性食物アレルギー形成の解明と寛解プログラムの作成

			ー食物アレルギーの真の寛解へー
7	小林 征洋	国立大学法人東京海洋大学 助教	魚類アレルギー(パルブアルブミン)のデータベース構築に向けた基礎的研究:多魚種にわたる魚類アレルギー含有量および免疫化学的性状の解明
8	佐藤 陽	いわき明星大学 薬学部 助教	新規アナフィラキシー治療薬の開発ービオチニル化ペプチドの有効性評価ー
9	杉浦 至郎	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長	急速経口免疫療法後に残存する運動誘発症状の機序に関する検討ー生体内における好塩基球活性化の可能性ー
10	高木 秀明	宮崎大学医学部医学科感染症学講座 免疫学分野 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の有効性の検証と作用機序の解明
11	谷田 守	金沢医科大学 医学部 生理学Ⅱ講座 准教授	アナフィラキシー低血圧時の交感神経興奮を惹起する脳内機構の全容解明
12	中島 陽一	藤田保健衛生大学医学部 小児科 講師	低アレルギー化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
13	八木 久子	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 小児科学分野 医員大学院生	新生児・乳児消化管アレルギーの診断にむけた革新的検査法の開発
14	吉岡 靖雄	大阪大学 微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト 特任准教授	独自の機能性ペプチドを用いた食物アレルギーに対する根治療法の開発
15	吉川 宗一郎	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 免疫アレルギー学分野 助教	新規脱顆粒インディケーターを用いたアレルギー検出システムの構築とその応用

※50 音順、敬称略、所属等は2018年4月時点

別表2 2019年度 公募型研究助成課題一覧

【共同研究助成(6件)】

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	安達 貴弘	東京医科歯科大学難治疾患研究所 准教授	食物アレルギーにおける免疫記憶の機序解明

2	岡田 直貴	大阪大学大学院薬学研究科 教授	重症食物アレルギーに対する経皮免疫療法の実用化に向けた非臨床・臨床 POC データセットの取得
3	佐藤 里絵	農研機構 食品研究部門 上級研究員	ソバアレルギーの特性改変に効果的な手法の探索
4	水野 雅史	神戸大学大学院農学研究科 教授	ヒ素摂取量低減を目的としたフコイダンの血中ガレクチン 9 分泌を促進させる食品成分との食べ合わせによるアレルギー発症予防
5	村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断技術の開発
6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω -5 グリアジン欠損食用小麦の開発: ω -5 グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて

【個人研究助成(16件)】

	氏名	所属機関	課題名
1	飯嶋 益巳	東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 准教授	HACCP 導入に向けた抗体精密整列化技術による食物アレルギーの超高感度検出法の開発
2	臼井 健二	甲南大学フロンティアサイエンス学部 准教授	工場内におけるアレルギー感作評価が可能なペプチドビーズを用いた簡易検査法の開発
3	大嶋 直樹	独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター 消化器内科 医長	血清 microRNA を用いた好酸球性食道炎の新規バイオマーカーの確立
4	大田 昌樹	東北大学大学院工学研究科附属 超臨界溶媒工学研究センター 助教	食物アレルギー対応食品製造のための新しい高圧噴霧技術の開発
5	川本 善之	中部大学 准教授	水溶解メラニンによるアナフィラキシー応答制御と作用機序の解明
6	小島 令嗣	山梨大学大学院 総合研究部医学域 社会医学講座 助教	家塵中の鶏卵抗原と鶏卵アレルギー発症の関連の解明
7	澤 新一郎	九州大学 生体防御医学研究所 システム免疫学統合研究センター 粘膜防御学分野 教授	3 型自然リンパ球を利用した新規食物アレルギー予防法の開発
8	清水 裕	北海道大学大学院 水産科学研究院 技術専門職	メイラード反応が甲殻類アレルギーの消化・吸収性へ及ぼす影響の解明

		員	
9	田中 守	中部大学応用生物学部食品栄養科学科 講師	食物アレルギーに対するカンナデンプンの予防効果
10	津曲 俊太郎	神奈川県立こども医療センター アレルギー科 医長	花粉・食物アレルギー症候群に対するシラカバ花粉免疫療法の有効性と安全性の検証
11	永井 宏幸	岐阜県保健環境研究所 専門研究員	LC-MS/MS を用いた特定原材料のアレルゲンおよび品種判別同時分析法に関する研究
12	永倉 顕一	国立病院機構相模原病院 小児科 医師	重症鶏卵アレルギー児に対する経口免疫療法ランダム化比較試験：炒り卵 VS 加熱卵粉末
13	中島 陽一	藤田医科大学医学部小児科学 講師	低アレルゲン化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
14	中野 泰至	千葉大学医学部附属病院 小児科 助教	乳児期のビタミンD投与によるアレルギー予防に関する研究開発
15	水島 秀成	北海道大学大学院理学研究院 生物科学部門 助教	鶏卵アレルゲン除去卵の作出
16	森田 英明	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長	重症消化管アレルギーの病態解明

※50音順、敬称略、所属等は2019年4月時点

別表3 第4回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品一覧

【一般の部(10件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/グループ名	都道府県
最優秀賞	みんな大好き 色いろたい焼き	立和名 亜希子	福岡県
優秀賞 (簡単レシピ)	お稲荷さんの黒酢あん焼売	LISA	東京都
審査委員特別賞 (非常食)	いのちつなぐアレルギーの人の非常食(ビスコッティ風)	米永 基子	福岡県
審査委員特別賞 (アイデア郷土食)	ぱくっと! こねつけ ～縁起担ぎの食材入り～	スマイルママ	長野県

審査委員特別賞	～おからのクランブル～ ベリーベリータルト	梶 恵美	北海道
審査委員特別賞 (プロ級レシピ)	なんちゃって 卵焼き	大阪医科大学付属病院 栄養課 青木 勝利	大阪府
入賞	月見うどん	宮古病院 すうみいず/ 鈴木 美加恵 尾形 壽々美	岩手県
入賞	レンチン de しっとり! オープン de カリッとメロンパン!	佐藤 快枝	千葉県
入賞	器ごといただく干豆腐のバリパリサラダ	LISA	東京都
入賞	ラザニアですが何か!?	こっひーけ	新潟県

【学生の部(10件)】

受賞名	料理名	氏名/ニックネーム/ グループ名	学校名	都道府 県
最優秀賞 (プロ級レシピ)	パリッと、りんごのミルフィーユ～in サツマイモクリーム～	友田 葉月	西南女学院大学 (保健福祉学部 栄養学科)	福岡県
優秀賞	コーンエッグの生ハムガレット	原 桃香	福岡県立久留米 筑水高等学校	福岡県
審査委員特別賞	もち餅ーズドック	生活文化科フードチ ャレンジチーム/ 遠目塚 さくら 工藤 宝子	宮崎県立延岡工 業高等学校	宮崎県
審査委員特別賞	かんぴょう de アップルパイ	チーム福田研究室	武庫川女子大学	兵庫県
審査委員特別賞	無限アレンジ! サクサク豆腐 de クリーム サンド	太田 花菜	西南女学院大学 (保健福祉学部 栄養学科)	福岡県
審査委員特別賞	みんなで食うどん! 豊橋カレーうどん!	成島 和伽 鈴木 ののか 前田 歩美	中部コンピュー タ・パティシエ・ 保育専門学校	愛知県
入賞	みんなのあこがれ! ふわとろオムライス	牛嶋 そよ花	佐賀県立鳥栖高 等学校	佐賀県
入賞	おもちゃず豆乳ドリア	新井 希美	広島酔心調理製 菓専門学校	広島県

入賞	ほーんとにちらし寿司 い!?	海洋学部水産学科食 品科学専攻/ 富永 悠記子 富永 基訓子 清水 寛正	東海大学	静岡県
入賞	タルト オ ポム Tarte aux pommes	Bon Bon Belle/ 張 雅棠 張 香晨 NADYA KUSUMA 蔡 禮全	大阪調理製菓専 門学校	大阪府

※敬称略

別表4 2018年度 団体活動支援助成課題一覧

【第一期 (5件)】

	活動課題名	団体名	代表者名
1	アレルギー対応子ども食堂スマイルシード	スマイルシード	笹畑 美佐子
2	食物アレルギー情報共有企画	大阪狭山食物アレルギー・ア トピーサークル「Smile・ Smile」	田野 成美
3	食物アレルギーのしゃべり場	特定非営利活動法人千葉アレ ルギーネットワーク	下条 直樹
4	災害時非常食のアレルゲン情報データベー ス構築と対応訓練ワークショップ	特定非営利活動法人インター ナショナル	菊池 信孝
5	第3回ふくおか食物アレルギー攻略法講座 (講演会/相談会)	ふくおか・食物アレルギー研 究会	安部 泰佑

【第二期 (5件)】

	活動課題名	団体名	代表者名
1	食物アレルギー児の安全と快適さの確保を 目指す 食物アレルギーマーク「みらいバ ッチ」	すぎなみ食物アレルギーの会	佐藤 香理
2	食物アレルギー児のための英語表現集	ピアサポート F. A. cafe	服部 佳苗
3	食物アレルギー対応子ども食堂スマイルシ ード特別企画「アレルギーのある子もない子 も一緒に食べよう！友情チキンカレー！！」	スマイルシード	笹畑 美佐子

4	第11回食物アレルギー教室 第一部：講演とエピペン講習会 第二部：料理講習会	食物アレルギーの子を持つ親 の会	武内 澄子
5	手帳「アレルギーっこのお食事メモリー」の 作成、普及	認定特定非営利活動法人アレ ルギー支援ネットワーク	坂本 龍雄

※活動課題名の50音順、敬称略

別表5 平成30(2018)年度 機関運営

	日付	会議名	主な議題
1	5月24日	第1回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度計算書類、事業報告の承認 定時評議員会招集の決定 平成30年度第一期団体活動支援助成 助成先の決定 平成30年度事業進捗状況の報告
2	6月12日	定時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度計算書類、事業報告の承認 役員を選任 評議員を選任 規程類の改定 平成30年度事業計画及び予算書についての報告
3	6月20日	第2回理事会 (決議の省略 による)	<ul style="list-style-type: none"> 代表理事、業務執行理事の選定
4	10月11日	第3回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度第二期団体活動支援助成 助成先の決定 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 平成30年度事業進捗状況の報告
5	2月1日	第4回理事会 (決議の省略 による)	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度公募型研究助成における採択候補課題の決定
6	3月7日	第5回理事会	<ul style="list-style-type: none"> 2019年度事業計画、収支予算についての承認 第4回食物アレルギー対応食 料理コンテスト 受賞作品の決定 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告 研究助成審査委員会からの上申内容についての報告

※元号は招集通知で使用した表記を使用

付属明細書に記載する事項無し

以上